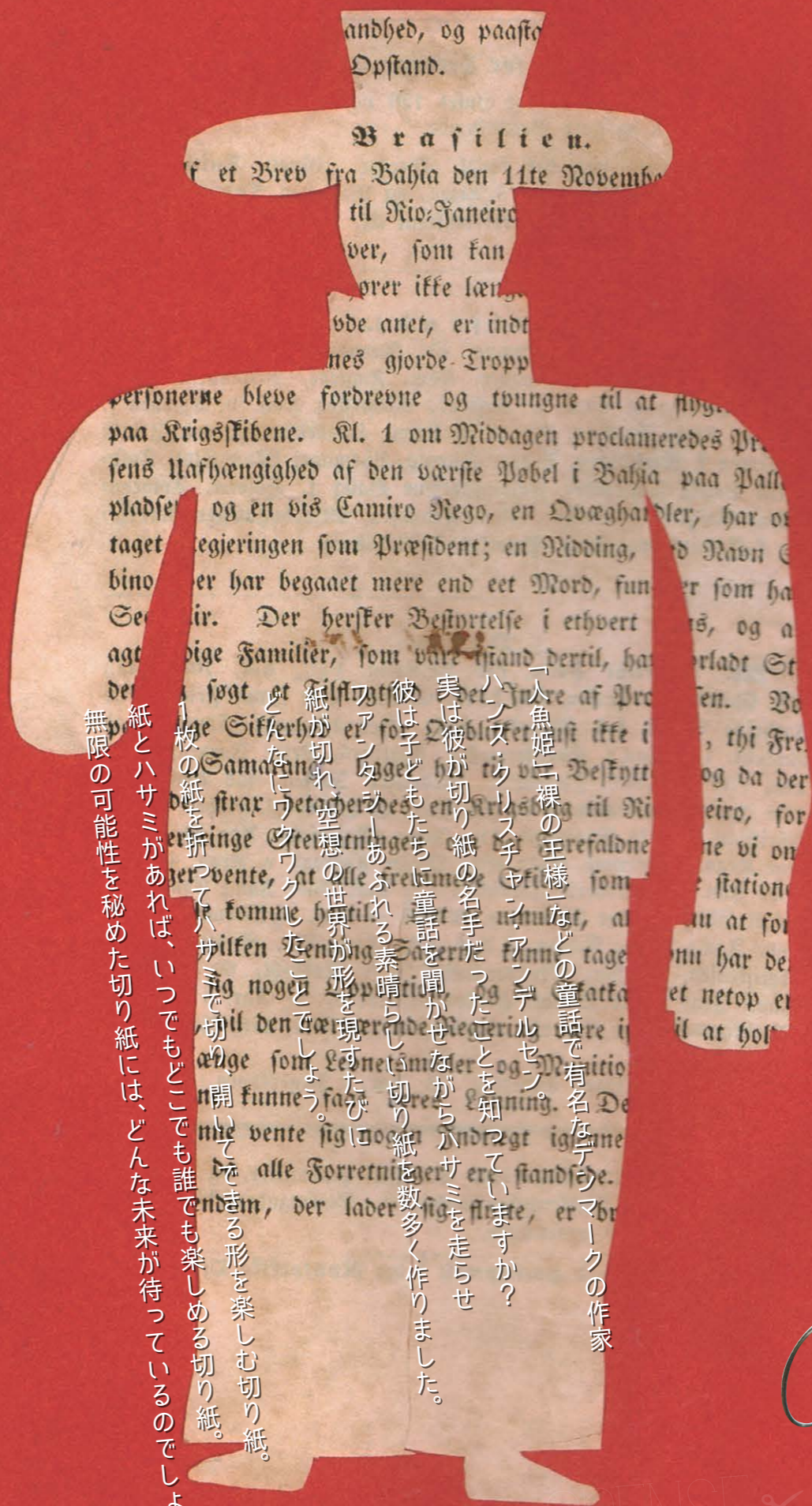


「千ヨキ千ヨキ」  
はさみに夢をのせて

# 「切り紙のつくりかた」



「人魚姫」裸の王様」などの童話で有名なデラマールの作家  
ハンス・クリスチアン・アンデルセン。  
実は彼が切り紙の名手だったことを知っていますか？  
彼は子どもたちに童話を聞かせながらハサミを走らせ  
「紙が切れ、空想の世界が形を現すたび  
一枚の紙を折ってハサミで切り開いてできる形を楽しむ切り紙。  
紙とハサミがあれば、いつでもどこでも誰でも楽しめる切り紙。  
無限の可能性を秘めた切り紙には、どんな未来が待っているのでしょうか。」

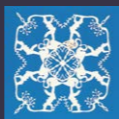
ANDERSEN PARK  
KODOMO ART  
MUSEUM

H.C.アンデルセンの切り紙  
Source : Odense City Museums.



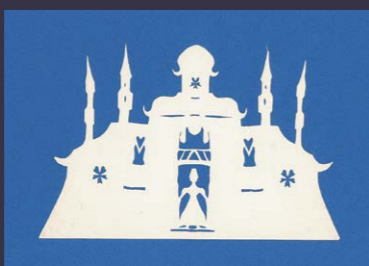
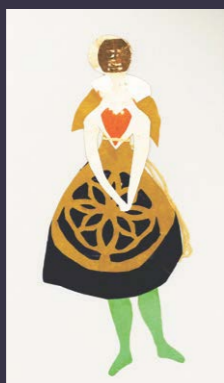
## アンデルセンの知られざる作品

### アンデルセンの 切り紙



紙を折り畳み、細かい切り込みを入れ、そつと開けば、妖精や踊り子の姿が現れる。そんな切り紙をたくさん作ったハンス・クリスチャン・アンデルセン。

彼の童話は、ペンだけではなく「ハサミ」からも生み出されていたのです。彼が切った作品は、数百とも数千とも言われています。しかし、現存する作品数は、250枚ほど。200年以上経った現在でも色あせしない新鮮な造形感覚で私たちに語りかけてきます。



ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館  
〒274-0054 千葉県船橋市金城町525  
<http://www.park-funabashi.or.jp/and>  
tel.047-457-6661

紙を折ってたたんで、ハサミで切って、そ〜っと開くと…  
 わあ！不思議。思いがけない形が現れます。好きな紙とハサミで、  
 ワクワク楽しい切り紙の世界へ！

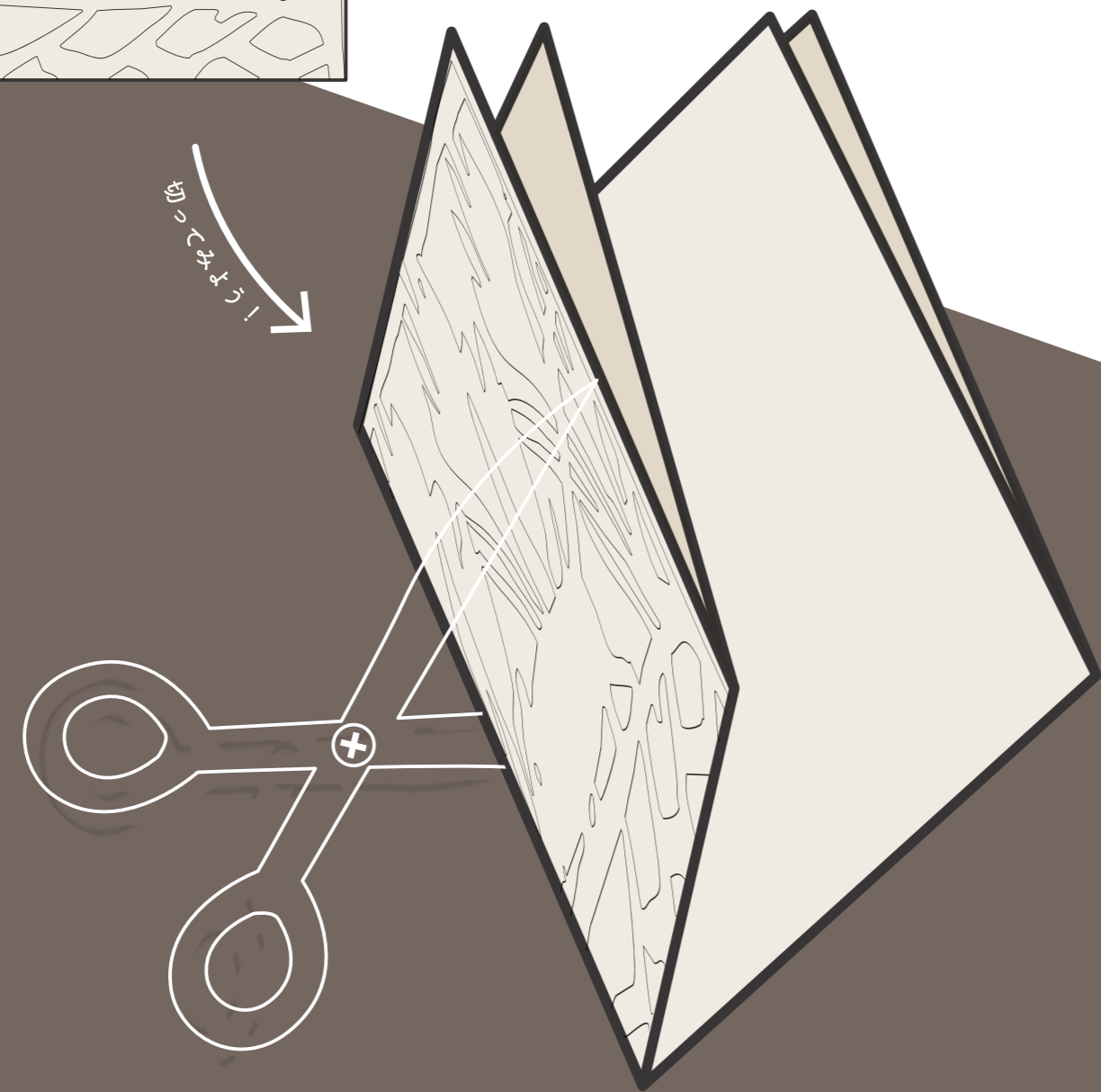


クイズ  
 Q. できあがった切り紙は、ど〜れだ？  
 右のページにかくれているよ。探してみよう！



読んだお話の好きな  
 シーンを思いうかべて  
 おった紙にかいてみよう！

アンデルセンの  
 切り紙にチャレンジ！



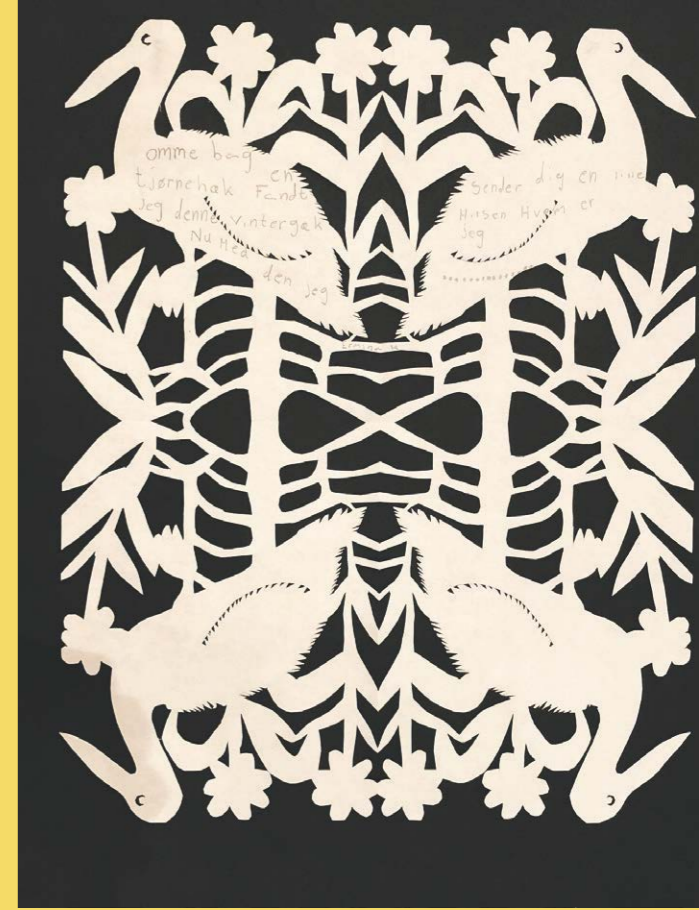
切り紙をたのしむための折り方

2つ折り？  
 4つ折り？

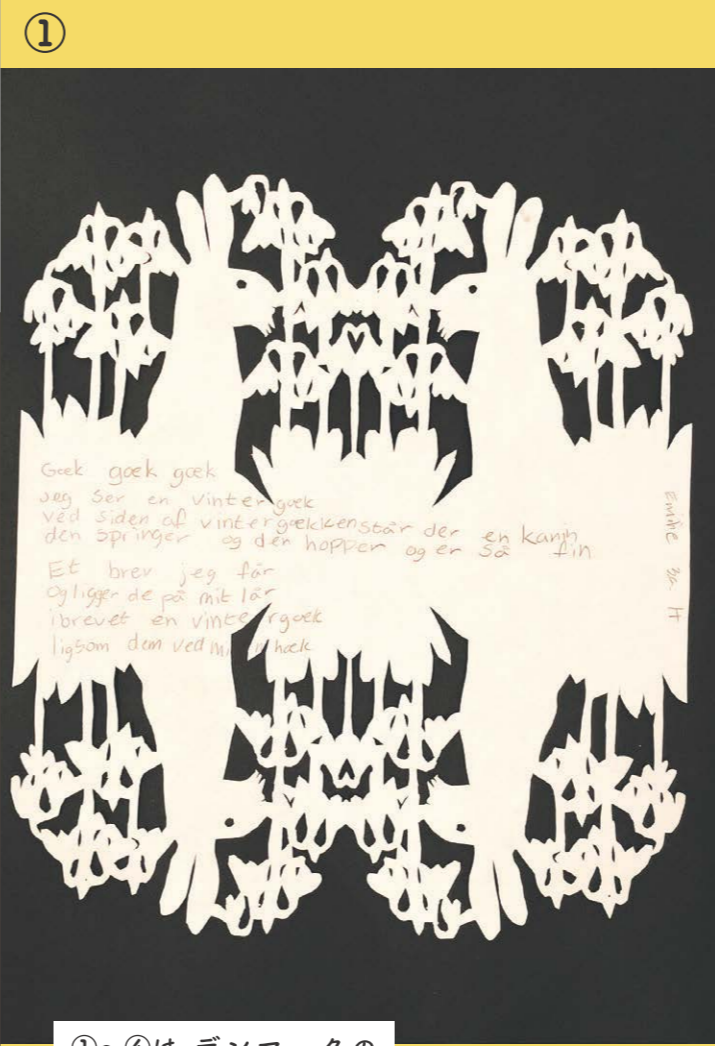
じゃばら折り…  
 あるかもしれない「〇〇折り」  
 ほかにもないか探してみよう。



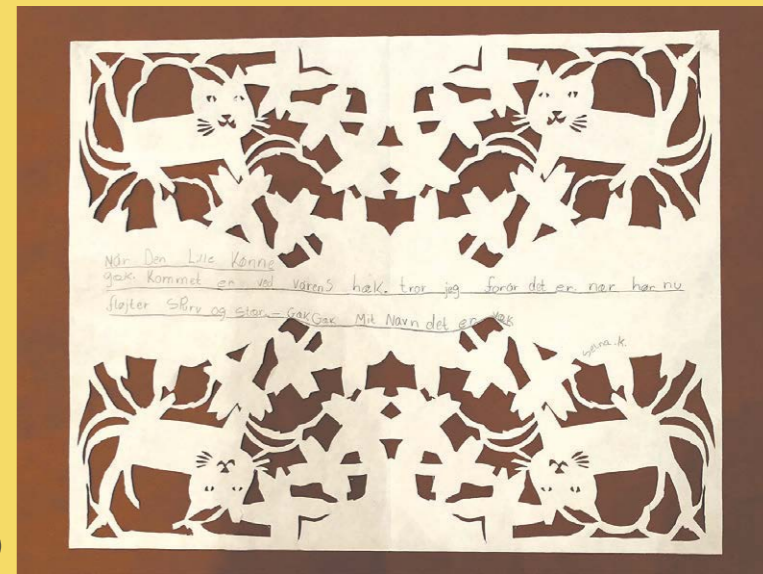
折り方によって、思いがけない  
 切り紙ができるかも…!?



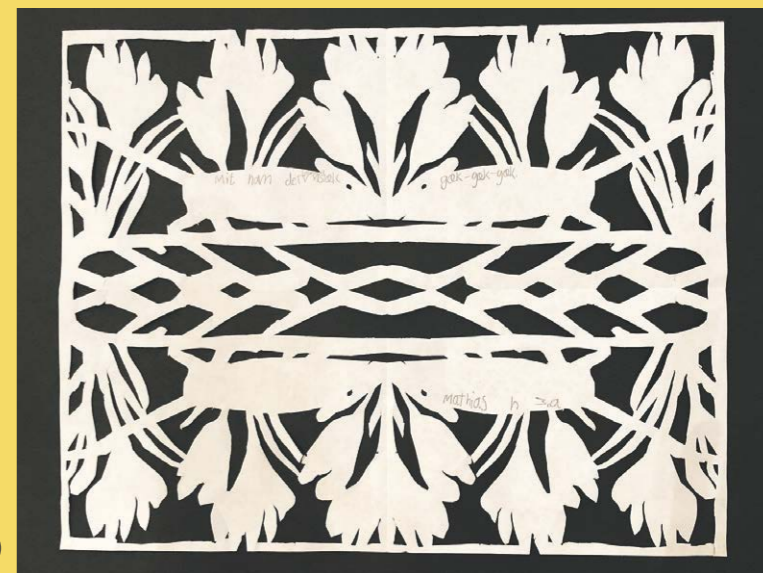
②



①



③



④

①～④は、デンマークの  
 子どもたちによる切り紙  
 です。

## すずの兵隊

しつかり者の

ある男の子の誕生祝いに送られたおもちゃの兵隊。古い錫のさじから作られた 25 人のうち、最後の兵隊は材料の錫が足りなくなり一本足でした。その兵隊は、紙を切り抜いてつくられたバレリーナの人形に思いを寄せます。片足を高く上げて一本足で立っているバレリーナの姿が、自分と同じように見えたのでした。ある日兵隊は窓から外に落ちてしまい、そのうえ子どもたちに紙の船に乗せられて溝へ流されてしまいました。濁流にのまれ、ドブネズミに追われ、最後は魚に食べられてしまいますが、偶然にもその魚が捕えられ、もとの男の子の家に戻ってきたのでした。しかし、バレリーナとの再会も束の間、運命のいたずらか暖炉の炎の中に兵隊は投げ込まれてしまいます。その時吹いた風に乗って、バレリーナも炎の中へ。二人は燃えていき、最後には小さなハート形の錫のかたまりが残りました。

## 親指姫

チューリップの花から生まれた小さな親指姫。バッドがわりにクルミの殻の中で眠っていたある晩のこと、ヒキガエルにさらわれ魚に助けられます。スイレンの葉に乗って川を流れていく中、チョウに出会い楽しい時も束の間、今度はコガネムシに連れられていかれ、森の中に置き去りにされてしまいました。一人さまよっていたところ、野ネズミの家に迎えられ暮らしはじめたある日、傷ついたツバメに出会い、世話をしあげます。やがて隣に住むモグラに結婚をせまられ、悲しみにくれているところをツバメに助け出されて花の国に連れていってもらいます。そこで自分と姿形がそっくりな花の王子と出会い、結婚して幸せになりました。

## みにくいアヒルの子

アヒルの群れの中で、みんなとはちがう姿のひなが生まれました。アヒルの親からは七面鳥かもしれないと思われ、周りのアヒルからはいじめられてしまいます。たえられなくなったアヒルの子は逃げ出し、つらい一冬を過ごしました。ある時、水に映る自分の姿を見て驚きました。いつの間にか大きくなり、美しい白鳥になっていたのです。

## 人魚姫

人魚の 6 人の姫のうち、末の姫は 15 歳の誕生日に海の上に昇っていき、船の上に美しい人間の王子を見つけました。人魚は人間の前に姿を見せてはいけぬ決まりと知ってはいたものの、嵐にあり海に投げ出された王子を思わず助け、人魚姫は王子に恋心を抱きました。けれども、王子が目覚めた時には別の娘がいて、王子はその娘に助けをもらったと思ってしまいました。人魚姫は王子に会いたい気持ちを押しえられず、魔女に頼んで声と引き換えに人間の足をもらいますが、「もし王子が他の娘と結婚すれば、姫は海の泡となって消えてしまう」と告げられます。王子と会い、

御殿で暮らせるようになりましたが、声を失った人魚姫は真実を王子に伝えることができず、とうとう王子は別の娘と結婚することになってしまいました。悲しむ人魚姫の前に、姉の姫たちが短剣を持って現れました。「髪と引きかえにしたこの魔女の短剣で王子を刺せば、人魚に戻れる」と。人魚姫は愛する王子を殺さずに自ら死を選び、海に身を投げて泡に姿を変えたのでした。人魚姫は空気の精となり天国へ昇っていきましたが、王子も他の人々もその事に気づくものはいませんでした。





## 皇帝の新しい着物

新しい服が大好きな皇帝のところにやってきたはたおり職人。うそをついてお金をもうけようたくらみ、馬鹿や自分にふさわしくない仕事をしている者には見えない不思議な織物をおることができると皇帝に申し出ます。皇帝は喜んでさっそく服をつくらせますが、ある日はたおりを見に行くと、そこにあるはずの織物が見えません。家来も皇帝自身も、馬鹿とは思われたいために本当のことが言えず、見えもしない織物を褒めちぎります。やがてできあがった服を身にまといパレードに臨む皇帝。見物人の子どもが「皇帝ははだかだ」と叫び出しますが、皇帝はただパレードを続けるしかありませんでした。

## マッチ売りの少女

大晦日の夜に寒空の下で一人マッチを売る少女。父親に叱られるので、すべて売れなければ家には帰れません。けれども、街ゆく人々は少女に目もくれず、足早に通りすぎていくのでした。夜もふけ、あまりの寒さに少しでも暖まろうと少女はマッチに火をつけました。すると、マッチの火とともに、赤々と燃えるストーブや七面鳥のごちそう、クリスマスツリーのまぼろしが一つずつ浮かんでは消えていきました。空に流れる流れ星を見て、ふとおばあさんの言葉を思い出します。「流れ星は誰かの命が消えようとしているの」と。次のマッチを灯すとまさにそのおばあさんが現れ、消えてしまわないようにいそいで残らずすべてのマッチに火をつけました。おばあさんの姿は明るい光につつまれ、少女を優しく抱きしめながら天へと昇っていきます。新しい年の朝、少女はマッチの燃えかすをかかえて倒れていました。その顔は幸せそうに静かにほほえんでいました。少女がマッチの火の中でおばあさんに会い、天へと昇っていったことは、だれ一人として知る者はいませんでした。

## 雪の女王

あるところに、とても仲のよい少年カイと少女ゲルダがいました。ある日のこと、悪魔のつくった鏡の欠片がカイの目と心臓にささり、意地悪な性格に変わってしまいました。しばらくしたある雪の日、カイの前に雪の女王が現れ、カイをどこかへ連れさつてしまいます。春になり、カイを探しにゲルダは旅をします。途中で山賊に襲われるも山賊の娘に助けられ、娘の力をかりて、とうとうゲルダは雪の女王の宮殿にたどりつきます。カイを見つけたゲルダは涙を流して喜び、その涙はカイの心につきささった鏡の欠片をときました。カイはもとの優しさをとりもどし、二人は手を取りあつて故郷に帰りました。